2020年7月23日

ITコーディネータ協会

共通EDI標準部会

SIPS流通BMSマッピングと中小企業共通EDIの整合性検討

この度、SIPSにおいて実施された流通BMS標準の国連CEFACT共通辞書マッピング成果物（以下、SIPS流通BMSという）と、中小企業共通EDI標準ver.3（以下共通EDI

という）の国連CEFACT共通辞書へのマッピング整合性をチェックしました。

マッピング整合性検討資料（以下、整合性資料という）を添付します。

今回の整合性チェックは注文メッセージと、出荷メッセージについて実施しました。

マッピング整合性チェックの結果、検討が必要なBIEについては整合性資料の当該BIEのセルを黄色にしてあります。尚、今回のマッピングは共通辞書のDENに対するマッピング差異の分析です。意味とマッピングが同じで表記が異なる日本語差異については原則としてチェック対象にしていません。

検討が必要なBIEについて、以下にその内容をSIPS流通BMSの行番号をキーとして示します。共通EDIについての記述には共通EDIの行番号を付記します。

【注文メッセージ】

1. 行番号２８：発注履歴番号

共通EDIの注文履歴番号（行番号３６）と同じ意味だがマッピングが異なります。統一が適切と考えます。

1. 行番号２０６：発注数量／行番号２１３：注文数量

行番号２０６はAgreementクラス、行番号２１３はDeliveryクラスにマッピングされていますが、同じ意味の情報項目ではないでしょうか？どちらかへの統合が適切と思います。

共通EDIはDeliveryクラス（行番号２３７）にマッピングしていますが、SIPSの方針に従います。

1. 行番号２２１／３３７：パッケージ単位数量／物流梱包数

パッケージ単位個数と物流梱包数の使い方は異なるとしてマッピングされていると判断しました。パッケージ数量単位は注文に利用するのでしょうか？その場合、注文数量との関係はどのようになるのでしょうか？

共通EDIではバラ発注とパッケージ単位発注に同じ注文情報BBIEを利用しています。入り数の有無でいずれの発注であるかを識別することにしており、用語定義に記載しています。

日本語情報項目名の定義と使い方の整合化が必要と考えます。

1. 行番号２３４：税合計金額

明細行の税額は１行ごとに発生しますので、明細部で税合計は発生しないはずです。

共通EDIはTaxクラスの行番号２７６明細税額へマッピングしています。ただし消費税は明細部の税額計算を認めていないので用語定義に次の記載をしています。

「明細行の税額（参考値）(消費税の明細行別税額計算はみとめられない)」

CCLマッピングと用語定義の整合化が望まれます。

1. 行番号２４９：入数

共通EDIは行番号２３８入り数へマッピングしています。その使い方は上記３項に示す通りです。SIPS流通BMSの入数と使い方についての整合化が望まれます。

1. 行番号２６３製品特性タイプコード

共通EDIは行番号３０２品目特性コードへマッピングしています。整合化が望まれます。

【税関係】**(SIPS事務局)**



【数量関係】**(SIPS事務局)**



【その他】**(SIPS事務局)**



【出荷メッセージ】

1. 行番号１９７／２７１：税区分コード（CI\_ Trade\_ Tax. Type. Code）

共通EDIは行番号１６２でCI\_ Trade\_ Tax. Type. Codeに税タイプコードの日本語名を当てています。CI\_ Trade\_ Tax. Type. Codeは消費税、所得税、法人税などの税種名を表記するBBIEと理解しています。

共通EDIは行番号１６４のCI\_ Trade\_ Tax. Category. Codeに税区分コードをマッピングし、消費税の複数税率を区分するコードとして定義しています。

国税庁は消費税関係の用語を統一しており、「税区分」については消費税の税率を識別する名称として定義していますので、日本語名は次の用語に整合化することを提案します。

・CI\_ Trade\_ Tax. Type. Code；税タイプコード

・CI\_ Trade\_ Tax. Category. Code：税区分コード

1. 行番号１９９／２７３：課税年度（CI\_ Trade\_ Tax. Category Name. Text）

共通EDIは同じBBIEマッピングの日本語表記を税区分としており、CI\_ Trade\_ Tax. Category. Codeに対応する日本語名を定義するためにセットで利用します。

税区分コードと税区分名は年度＋税率の組合せとなるため、共通EDIでは実装が最も容易となるコード体系を標準化することが求められており、今後ベンダー各社のご意見を取りまとめて標準ver.4へ反映する計画です。

このような状況からこのBBIEの日本語名は税タイプコードとセットにして、下記への整合化を提案します。

・CI\_ Trade\_ Tax. Category Name. Text：税区分名

1. 行番号２０２／２７６：税計算方式

このBBIEの定義については、財務省より消費税申告のために規定した用語を、商流の中で混在して利用することは望ましくないとの指摘を受けました。

そのため共通EDIではこの税計算方式BBIEの定義を金額の外税、内税の識別を主目的として利用することとし、次のように定義を変更しました。

「金額の税込み、税抜きを指定。※金額が「税込み」の場合は必須。「税抜き」の場合は任意」

また共通EDIでは明細行における内税と外税の混在は認めないことにしています。これを実現するために、ヘッダ部の税計算方式で文書全体の外税・内税の指定を行うこととし、明細部における税計算方式は削除しています。

SIPS流通BMSでは注文メッセージと出荷案内メッセージで定義の説明内容が異なっています。また明細部にも税計算方式が規定されています。

消費税に関する用語定義と利用法については共通整合化が必須と考えます。

1. 行番号２３1：注文明細行契約／取引価格アソシエーション

JPS発番されていますが、共通EDIはUN01012680へマッピングしています。

1. 行番号２４２／２４４：出荷数量（バラ）／出荷数量（発注単位）

行番号２４５／２４６：欠品数量（バラ）／欠品数量（発注単位）

行番号２９６：入数

行番号３３７：物流梱包数

数量関連の日本語BBIEについて、注文メッセージも含めて多様な用語が利用されています。まず日本語BBIEの用語と定義の整合化が必要と考えます。

* SIPS流通BMS注文メッセージ：発注数量、注文数量、パッケージ単位数量、入数
* 共通EDI注文メッセージ：注文数量、入り数、梱包単位個数
* SIPS流通BMS出荷案内メッセージ：出荷数量（バラ）、出荷数量（発注単位）、欠品数量（バラ）、欠品数量（発注単位）、入数、物流梱包数
* 共通EDI出荷案内メッセージ：出荷数量、要求数量、欠品数量、入り数、梱包単位個数

これらの日本語情報項目のCCLマッピングにはかなりばらつきがあります。まず日本語情報項目の整合化作業を行い、その結果をCCLへマッピングしてはいかがでしょうか？

審議結果を標準ver.4へ反映したいと考えます。

【税関係】**(SIPS事務局)**



【数量関係】**(SIPS事務局)**



【その他】**(SIPS事務局)**



【データ連携についての追加考察】（SIPS事務局）

1. 流通BMS定義の情報項目を全てSIPS参照メッセージにデータ連携するには、CCLに55項目のBIE追加申請が必要。



1. SIPS参照メッセージにあり、流通BMSに無い情報項目の扱いをどうするか？

例：取引当事者の連絡先情報

1. 流通BMS定義の情報項目及びSIPS参照メッセージにあって、中小企業共通EDIにデータ連携できない情報項目をどうするか？
2. 中小企業共通EDIにあってSIPS参照メッセージに無い情報項目をどうするか？
3. 中小企業共通EDIにあって流通BMSに無い情報項目をどうするか？

**🡺議題６「ビジネス文書プロファイル合意形成について」参照**